

---

 学 会 記 事
 

---

## 第 48 回新潟画像医学研究会

日 時 平成 14 年 11 月 16 日 (土)  
午後 2 時～  
会 場 万代シルバーホテル

## I. 一 般 演 題

## 1 拡散強調画像にて著明高信号を呈した扁平上皮癌合併巨大類表皮嚢腫の 1 例

根本 健夫<sup>1)</sup>・笹井 啓資<sup>1)</sup>・武田 敬子<sup>2)</sup>  
樋口 健史<sup>3)</sup>・鈴木 昌志<sup>4)</sup>・酒井 邦夫<sup>5)</sup>  
生越 章<sup>6)</sup>・堀田 哲夫<sup>6)</sup>・梅津 哉<sup>7)</sup>  
新潟大学医学部放射線科<sup>1)</sup>  
済生会新潟第二病院放射線科<sup>2)</sup>  
新潟市民病院放射線科<sup>3)</sup>  
厚生連刈羽郡病院放射線科<sup>4)</sup>  
新潟労災病院放射線科<sup>5)</sup>  
新潟大学医学部整形外科<sup>6)</sup>  
同 病理部<sup>7)</sup>

症例は 60 歳男性。20 年前から自覚していた右臀部腫瘍が徐々に増大し受診。MR 所見は巨大な嚢胞性腫瘍。内溶液は拡散強調画像で著明な高信号を呈した。壁の一部には不整に造影される充実成分を認めた。摘出された病理組織標本で類表皮嚢腫であることが確認され、MR での充実成分と一致して高分化の扁平上皮癌が存在した。

## 2 MRI で経過観察し得たタコツボ型心筋症の 1 例

國井 亮祐・高木 聡・木原 好則  
岡村 和気\*・政二 文明\*  
県立中央病院放射線科  
同 循環器科\*

症例は 71 才、女性。主訴は胸部痛。既往歴として脳梗塞。

現病歴は、H14 年 7 月 13 日より肺炎で当院内科に入院。15 日より胸部痛が出現。狭心症が疑われ循環器科に転科した。心電図では II, III, aVf, V<sub>2, 3, 4</sub> で ST 低下, 心エコーでは心尖優位に左室壁の運動低下を認めた。駆出率は 35 %であった。

シネ MRI では、タコツボ型心筋症の壁の運動異常が描出でき、造影 MRI では、虚血性変化や炎症を示唆する所見は得られなかった。また、経過観察のシネ MRI で壁運動が正常化していく様子を客観的に確認できた。タコツボ型心筋症において、MRI は心エコーや左室造影検査に劣らぬ情報が得られ、また、病変全体を非侵襲的に客観的に描出できるという優れた点があり、有用と考えられた。

## 3 骨転移との鑑別を要した副甲状腺癌に合併した褐色腫の 1 例

高野 徹・奥泉 譲・伊藤 猛  
西原真美子・宮腰 将史\*・嶋井 久司\*  
富樫 賢一\*\*

長岡赤十字病院放射線科  
同 内科\*  
同 胸部外科\*\*

症例は 55 才女性。平成 13 年 4 月頃より腰痛、膝痛を自覚。平成 14 年 1 月精査にて intact-PTH 1560pg/ml (正常 22-54) ↑を指摘され副甲状腺機能亢進症と診断。99m-Tc MIBI で左副甲状腺下腺、肋骨に多発して遅延相で集積残存がみられた。副甲状腺の病変は 25mm の充実性腫瘍で CT で一部低濃度を呈し副甲状腺癌を疑い、肋骨の病変は転移と褐色腫との鑑別が問題となった。MRI で肋骨の病変は T1, T2 低信号を示した。手術で